

平成28年度 生徒指導にかかわる現状と課題

部長 小池 進輔

1 生徒指導の動向

県は、平成28年度学校教育の重点事項3に、「いじめを見逃さない、いじめを許さない意識の醸成」（「いじめ見逃しゼロスクール」の推進）を掲げ、下記の（1）～（3）の視点を提示している。これを受けつつ、各郡市では、その実態に応じた様々な取組が行われた。

（1）未然防止、早期発見・即時対応のための生徒指導体制の強化

糸魚川を初め、各郡市で、「いじめ防止基本方針」の実効性を高めるために、各校がその見直しと校内研修を工夫して行っている。上越では、苦情を言ったり脅したりする保護者への対応、及び、小学校時代からいじめを受け続け、中学校入学後も不登校傾向にある女子生徒の理解と対応について、事例研究を行った。糸魚川や燕・西蒲では、ネットトラブルの事例や情報交換等から、学校としての対応について研修を深めた。

（2）学校間、家庭、地域、関係機関との連携に基づく指導・支援の充実

妙高では、いじめの被害経験者を講師に招き、当事者の生の声やメッセージを聞く研修を行った。その後、中学校区毎に分かれ、いじめ・不登校の現状と課題について情報交換を行った。柏崎・刈羽では、小中一貫方式で、新たないじめを生まない、児童に夢や希望をもたせる、集団づくりに着目する、等のいじめ・不登校対応の視点を共有した。長岡・三島では、各中学校区で、「いじめ見逃しゼロスクール集会」「地域連携フォーラム」等を地域に公開した。南魚沼では、市のSSWから、問題行動を起こす子は「困った子」ではなく「困っている子」であること、その子の家庭が抱える問題をジェノグラム（家族関係図）を基に考えること等を学び、家庭や地域との連携を図る生徒指導について研修を深めた。魚沼では、警察署や鑑別所と連携しながら、非行少年等の検挙・補導状況や問題行動の背後にある心理状態と対応について理解を深める研修を行った。上越では、いじめ問題を学校だけで抱え込まず、関係機関と連携しながら解決していく大切さを再確認する研修を行った。柏崎・刈羽では、子育て支援センターや児童相談所の機能、虐待への対応について研修を深め、連携の大切さと課題を共有した。長岡・三島では、思春期保健相談士から、思春期の親子関係について考えを深める講演を聞いた。また、保護司会・市教委と連携しながら、特別支援教育の視点から生徒指導で配慮することについて研修した。

（3）社会性の育成をとおした、いじめを生まない風土づくり

魚沼では、市の教育振興会重点事業「温かい学級づくり支援事業」との関連を図りながら、人間関係づくりにかかわる研修を積んできた。上越では、不登校の未然防止に向けて、対症療法だけでなく、前兆に気づいたときの予防的アプローチ、そして、日々の教育活動の充実による開発的アプローチの大切さを再認識する研修を行った。新潟では、日々の授業づくりと生徒指導との一体化を図り、学級の支持的風土を支える共感的人間関係を形成する力の育成について実践と考察を重ねてきた。また、児童自身が問題に対処するための社会的能力を育成する手法について研修を深めてきた。長岡・三島では、各校の代表児童を集めた児童交歓会で、児童会活動の運営について意見交換する場を設定し、自治能力を高める取組を行った。

2 生徒指導の課題

各郡市では、真摯な生徒指導研修、そして、校内外での情報連携・行動連携が進められている。それにもかかわらず、いじめ・不登校問題が依然として深刻なのは、どこに根の深い問題があるのか、家庭・地域・関係機関等との連携を一層深めながらさらに追究・共有していく必要がある。何よりも、児童自身が生き生きと過ごし、自己有用感や自己存在感を味わえる学校づくりが求められている。